

種名	オ オ イ ト ト ン ボ <u>Cercion sieboldii</u> 
分類	昆虫綱トンボ目 イトトンボ科
俗称	和名は「大きなイトトンボ」という意味でつけられているが、他のイトトンボ類と比べてそれほど大きいわけではない。
形態的な特徴	体長 36mm(腹長 22～29mm、後翅長 22～29mm)ほどで、雌雄ともほぼ同じ大きさである。体色は雄が淡青色、雌が黄緑色の地色で、それぞれ黒斑があり同属のムスジイトトンボ、セスジイトトンボに似ていて識別は難しい。雌の中には、黄緑色の部分が雄と同じように青くなる同色型も見られる。幼虫の体長は 16mm(側尾鰓長 7mm)ほどで、成虫と同じくムスジイトトンボ、セスジイトトンボの幼虫によく似ている。体色は淡褐色～淡緑色、緑褐色で、半ば透き通った個体も多く見られる。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道と東北地方、九州南部では産地が限定され、東海地方では少ない。離島では佐渡島、淡路島、隠岐、杣岐、対馬、五島列島、天草諸島、甌島列島などに分布する。
繁殖行動	成虫は5月から9月頃に出現する。幼虫は朝方から午前中、水面の上にある挺水植物や浮葉植物の葉上などに定位して羽化する。未成熟個体は羽化水域をあまり離れず、付近の岸辺の植物群落内で多く見られる。成熟した雄は早朝から水域に現れ、浮葉植物や水面からでた植物の茎などに止まって縄張りを占有する。交尾は日中におこなわれ、雌雄が連結した状態で水面近くの植物組織内に産卵する。しばしば潜水産卵もおこなわれ、潜水時間は20～30分に及ぶこともある。
生息場所	おもに平地から低山地の挺水植物・浮葉植物・沈水植物が繁茂した池沼や、湿地の滞水、浅い止水や緩い細流などに発生し、山間の水田に多い。長野県では白樺湖(1,420m)のような標高の高いところでも観察されている。丈の低いまばらな湿性草地在を好んで生息しているため、草地在が乾燥化したり、草木が繁茂したりすると姿を消してしまう。このような安定した丈の低い湿性草地在が消失しているため、生息数が少なくなっている。
食性	
生息環境への配慮事項	産卵に必要な水生植物や、羽化後の個体が成熟するまで過ごすための水域に隣接した丈の低い草地在などが確保されることが重要となる。また、オオイトトンボの成虫は、開放水面を好む傾向が強いため、水生植物が繁茂しすぎないように配慮する必要がある。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	